



令和3年度

地域における子どもの貧困対策 モデル事業実施事例集



令和4年3月
宮城県社会福祉協議会

はじめに



「地域における子どもの貧困対策モデル事業」は、宮城県社会福祉協議会が宮城県から受託している事業であり、令和2年度より開始され、令和4年度までの3か年の事業を予定しています。

近年、増加しているいじめや不登校、学力不振、虐待等の背景には、貧困問題があるといわれています。このことで子どもたちが自身の能力や可能性を発揮する機会を失い、貧困が連鎖してしまうことは、社会的損失にもつながると考えられており、だからこそ地域全体で支えていく仕組み作りが重要であると考えています。

また、貧困状況にある子どもや家庭の一部は、必要な支援制度を知らない、あるいは手続きが分からない、積極的に利用しづらい等の状況もあるといわれており、いち早く貧困に気づき、必要な支援につなぐ身近な相談先が地域の中で必要になります。

そこで、どのような環境にあっても子どもたちが地域の中で、安心して安全に過ごせる居場所を増やし、子どもたちへの支援を行っていくことを目的とし、県内の社会福祉法人を対象として、モデル事業を実施することになりました。社会福祉法人の福祉サービスに関する専門性やノウハウ、地域の関係者とのネットワークを活かして子ども達への支援をつなげるために、取り組みに前向きな社会福祉法人が、地域の資源とニーズに応じた事業をモデル的に実施します。

今回、令和3年度に事業実施をした10法人の取組をまとめ、事例集として配布することになりました。

これらの事例が、今後地域で実施していく貧困対策事業の参考になれば幸いです。



事例紹介

1. 亘理町社会福祉協議会（社会福祉協議会）
2. 色麻町社会福祉協議会（社会福祉協議会）
3. 蔵王町社会福祉協議会（社会福祉協議会）
4. 気仙沼市社会福祉協議会（社会福祉協議会）
5. 社会福祉法人 ことぶき会（高齢者施設）
6. 社会福祉法人 ライフの学校（高齢者施設）
7. 社会福祉法人 青葉福祉会（高齢者施設）
8. 社会福祉法人 未来福祉会（保育園）
9. 社会福祉法人 宮城厚生福祉会（保育園）
10. 社会福祉法人 輝宝福祉会（保育園）

1.

巨理町社会福祉協議会

地区：巨理・逢隈地区

企画名：わたりんりん

学校の長期休暇中における子どもたちや、多世代交流を目的にした地域食堂や子育て支援イベントとの共催事業

内容

イベントは、小中学校が長期休暇中の、8月・12月・3月に開催した。

コロナ禍のため、会食ができず手作り弁当の配布を行い、来場した参加者だけではなく地域の公営住宅への配達もあわせて行った。また、イベントの中で和太鼓演奏や腹話術などの催し物も行い、地域の中で世代間交流を深めた。

フロアの中に、子育てに不安を抱える親の支援として、悩みや相談ができるブースを設けている。

協働団体：町役場（健康推進課・子ども未来課・子育て包括支援センター）
民生委員児童委員協議会、婦人団体、ボランティアネットワーク巨理、NPO 法人、子育てサポーター



実行委員との
打ち合わせ

地域とのつながり：町役場で、児童手当給付世帯にイベントの申込フォームが添付してあるチラシを配布する。開催にあたり、協働団体と定期的な実行委員会を行い、地域の情報・課題共有や意見交換、開催に向けての準備を行っている。

【婦人会、ボランティア
手作りの弁当♪】



【腹話術・相談ブース】

コロナの影響で、
会食ではなく、
弁当配布を行いました



所感：県社協として、わたりんりん当日はスタッフとして手伝いを一緒に行ったり、定期的に開催している実行委員会に参加している。イベントでは弁当配布や催し物以外にも、助産師が中心となり親子の相談ブースを設けて、気になる家庭へ声がけしたり、悩みを聞ける環境が整っており、親子の支援につながっていると感じた。

2.

色麻町社会福祉協議会

地区：色麻町内全域

企画名：ふれあい食堂

学習支援と食事提供を組み合わせた居場所づくり事業

協働団体：町役場（保健福祉課・教育総務課・社会教育課）、色麻小中学校、加美農業高校、商工会、民生委員（児童委員）、老人クラブ、地元飲食店、農業共同組合

地元高校生との
折り紙、キーホル
ダー作り

地域とのつながり：町役場の子育て支援課と教育総務課、小中学校でチラシ設置や配布を行っている。また、年に3回協働団体で検討会議を行い、課題含めた情報共有や意見交換を行っている。

【検討会の様子】

内容

参加対象は、小学校4年生から中学校3年生までとして、7月から3月まで月1回（16:00～18:30）最終水曜日に開催している。各回15人定員とし、毎回10人以上が参加している。

部屋では、学習と遊べるスペースを分け、地域の高校生やボランティアに宿題を教えてもらったり、協働団体主体で、ワークショップを開催し、キーホルダー作りやしめ縄作りを体験したりなど子どもたちが楽しく過ごせるよう工夫している。また、コロナ禍のため会食はできなかったが、町内飲食店の手作り弁当を配布した。

町内飲食店手作り弁当

老人クラブの
皆さんとしめ
縄作り

所感：県社協としては、協働団体と行う検討会議に、オブザーバーとして参加し、他法人の取組紹介などを行った。地元商工会と連携し、町内飲食店の手作り弁当を配布し、地域の協力も得ながら事業を行っている。今後も事業を通じて、地域とのつながりが継続していけると感じた。

社協職員と
UNO 対決！

3.

蔵王町社会福祉協議会

地区：蔵王町 遠刈田地区

企画名：ざおうさま食堂

多世代交流を目的とした地域食堂事業

協働団体：町役場，民生委員，
ざおうの杜，はらからざおう塾，せせ
らぎのさと蔵王，母子寡婦福祉会
事務局

地域とのつながり

イベント開催前に、社協中心に協働団体との打ち合わせを行い、情報や課題共有をしている。また、地区ごとの開催を企画している。ここでは、民生児童委員との連携で地域のニーズに合った事業を計画していく。



【手遊びゲーム】

内容

12月（土曜日 10:00～11:30）に遠刈田地区で、地域住民を対象にしたざおうさま食堂を開催した。幼児から高齢者まで幅広い地域住民 35人が参加し、手遊びやジェスチャーゲーム、ポッチャ体験やラダーゲッターなど、世代問わず全員が楽しめるイベントを行った。コロナ禍で会食はできず、昼食として地元レストランのお弁当を配布した。

なお、当日は、社協中心に民生委員、施設職員とイベント開始前に参加者の情報共有を行い、積極的に声がけをして相談などに応じていた。

2月・3月は、対象を町の片親家庭に絞り、テイクアウト版ざおうさま食堂として弁当の配布を行った。



【ポッチャ体験】



【ラダーゲッター】

【地元食材を使用した弁当】



テイクアウト版
ざおうさま食堂

所感：参加対象を地区住民全体にし、幅広い世代交流ができる場を作ることで、普段からの見守りや声がけできるきっかけづくりとなり、必要な支援へとつなげていくことができると感じた。

地域とのつながり

社協と気仙沼あそびーばー、民生委員を中心に定期的な打ち合わせを行っている。社協の持っている地区の情報をあそびーばーに提供し、事業の幅を広げている。

また、事業の周知方法として、大谷地区の小中学校も協力的で全生徒へチラシの配布と設置を行っている。

4. 気仙沼市社会福祉協議会 本吉支所

地区：気仙沼市大谷地区

企画名：ほしぞら食堂とあそびーばー

子どもの遊び場と食事支援を組み合わせた居場所づくり事業

協働団体：気仙沼あそびーばー、相談機関
ひありんく、東北 AGAIN、民生委員、大谷
小学校・中学校、気仙沼ライトハウス

みんなでの会食



常設の遊び場



【季節に合わせて
リース作り】

内容



【お届けびーばー
弁当配達】

所感：情報発信力がある社協とこれまで活動を続けてきた、あそびーばーが連携した事業で、それぞれの特性を生かして活動や支援を行うことができている。

また、開催頻度が多いことで、課題や悩みに対しての早期支援につながると感じた。

遊び場を、週5回（水～日）10:00～17:00に開放しており、こどもたちから高齢者まで幅広い地域住民が自由に遊びにきている。休日や子どもたちの長期休みにもかかわらず開催している。

子ども食堂（ほしぞら食堂）は、月1回夕方に開催している。コロナの影響で会食の実施が難しい月では、弁当の配達を行い、訪問の時に個別相談も行った。

さらに、無料で好きなものを好きなだけ持ち帰ることができる、服や靴、おもちゃやぬいぐるみ、食材等の無料譲渡会も不定期だが開催している。

5. ことぶき会

地区：東松島市小野地区

企画名：やぎプロジェクト

多世代交流を目的とし、食事提供を組み合わせた居場所づくり事業



内容

施設の敷地内にやぎ山公園を設置し、いつでも自由に遊びに来れる場として開放している。屋外では食イベントとして「カレー祭り」を行い、30人ほどの親子中心に地域住民が参加した。さらに、施設の利用者も外に出るきっかけや、幅広い地域住民が交流できる機会として好評である。

これまで関わることのなかった、地域の小中学校や高校と連携し、授業に組み入れて交流会を開催している。そのつながりもあり、子どもたちが学校帰りや休みの日にも遊びに来るようになってきている。

協働団体：東松島市福祉課、鳴瀬桜華小学校、宮の森小学校、鳴瀬未来中学校、ウェルネス高校、いちよの会、民生委員、ボランティア団体

地域とのつながり

小中学校、高校との連携で小屋やサークル作り、やぎの命名やエサ収集などを一緒に行った。これまで来ることがなかった地域住民が遊びに来るようになった。敷地内に来るきっかけができたことで、施設についても知るきっかけにもつながった。

また、事業実施に向けては、東松島市福祉課とも相談している。

小屋やサークル作りは、高校生と一緒に行いました！



冬に子ヤギが
2匹誕生しました

所感：これまで孤立していた敷地内に、やぎをきっかけに地域住民が遊びに来るようになり、地域の中での新たな居場所作りにつながっている。学校との関わりも深く、授業内だけではなくそれが日常（外）へと広がり、人が集まる良い循環になっていると感じる。

【カレー祭り】



地区：沖野中学区（仙台市）
企画名：ライフの図書館（寺子屋）
学習支援を組み入れた居場所づくり事業

6. ライフの学校

協働団体

仙台版コミュニティ・スクール「おきの学園学校運営協議会」メンバー（小学校長，PTA会長，スーパーバイザー，町内会長，民生委員，幼稚園園長，介護施設長の15人で構成）



【学校運営協議会】

内容

以前から行っているこども食堂に加えて，学習支援として週1回16:00～17:30で，寺子屋を開催した。講師は，地域に住んでいる元学校職員に依頼している。連絡帳を用いて，講師や職員が親にコメントを残し，子ども達の様子や情報共有を行っている。

仙台版コミュニティ・スクール「おきの学園学校運営協議会」と連携し，週1回の会議で地域の子どもの現状や，学校での取組，様子をこまめに共有してニーズに合わせて開催している。

【地域の元教職員の方が講師をしています】



地域とのつながり

おきの学園学校運営協議会の会議に参加し，地域の様々な団体と学校（地域の子どもたち）の現状と地域の課題を共有し，協力し合って解決に向けて協議を行っている。

【息抜きはみんなで屋上へ】



所感

学校外での学習支援や居場所ができることで，子どもたちにとって学校とは異なる社会や大人とのつながりができていると感じた。また，学校や寺子屋での様子や家庭状況など関係者がこまめに情報共有できる関係性が作られている。



7.

青葉福祉会

地区：仙台第一中学校区周辺（仙台市）

企画名：あおばつながり隊

食事提供と無料譲渡会を組み合わせた
居場所づくり事業

協働団体：町内会長，民生委員，法人内看護師，商店街（スーパー，病院，地元商店）

内容

文具用品や古本の無料譲渡会「あおぞらほん屋さん」「あおばこ」を月1回定期的に開催した。さらに食事提供と施設内での遊び場提供として、「食べる子学ぶ子元気な子」を開催し、施設内で芋煮を配布しゲームコーナーや子ども同士が交流できる場を設けた。

親子で参加している家庭も多く、スタッフが必ず声をかけるようにして、子育ての相談や困りごとがある場合は、相談ブースで話を聞くようにしていた。

地域の中で顔の見える関係性の構築を図ることから、登下校の時間に安心パトロールを積極的に行った。

文房具類の
無料譲渡会



【食材やお菓子の
無料くじ引き】



【芋煮づくり】



所感

無料譲渡会の口コミが広がり、地域住民からの寄付や支援が増えてきている。大々的なイベントではないからこそ、参加しやすい環境がつけられている。

地域とのつながり

地域の病院や商店など幅広くいろんな人に見てもらうため、チラシ設置に協力してもらった。食イベントでは、町内の地域住民からの賛同もあり物品等の貸し出しもあった。民生委員から直接、支援が必要な家庭への声がけに協力してもらっている。

8. 未来福祉会 ミッキー保育園

地区：北仙台学区(上杉小・通町・宮城教育大学附属小),
八乙女学区(黒松小・八乙女小・南光台小)
企画名：ミッキーレストラン
児童館と連携した子ども食堂と居場所づくり事業

栄養士の
手作り弁当



内容

月に1回、北仙台園と八乙女園それぞれの保育園で、弁当配布を行っている。学校終わりの時間に合わせて15時から19時まで保育園を開放し、子どもたちが弁当を取りにくるだけではなく、遊び場を設けて子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる。また、保育士が必ず迎えにきた保護者に声がけするようにしていて、いつでも相談できる環境作りを行った。

対象者を小学生にしているが、高校生までの兄弟がいる場合は、兄弟分も一緒に申し込みができるようにしている。

申込みQRコードがついたチラシ周知だけではなく、HPからも申し込みができるように工夫したことで、参加者が増えた。



兄弟の分ももらえるので、家族みんなで夕食を楽しめる！



所感：地域性に合わせた開催ができており、その都度親子にアンケートを行い、声に寄り添った内容になるよう企画が考えられている。保育士がいる環境で遊べるスペースもあり、保育所が地域にひらかれることで、いつでも相談できる窓口として関わることができている。

地域とのつながり
児童館、小学校がポスターの掲示や、申込みチラシ配布を行っている。児童館職員から直接親子へ声がけを行うこともある。また、町内会での会合でも周知をしている。

協働団体
近隣児童館、小学校、町内会、

地域とのつながり

9.

宮城厚生福社会 乳銀杏保育園

地区：宮城野小学校区（仙台市）

企画名：食と絵本とわらべうた遊びで子育てを楽しもう
児童館と連携した子ども食堂と居場所づくり事業

協働団体：宮城野児童館，宮城野子ども食堂



絵本やおもちゃの
貸し出しも行いま
した！

内容

宮城野児童館に出向いて、月2回絵本やおもちゃを持参し、子どもたちや親子の遊び場を設けて、読み聞かせや手遊びを行った。各回10～15人程度が参加をしていた。月によっては、児童館で行っている子育てサロンの中で、親子でできるわらべうたや遊びを提供した。

同じ空間ではあるが、子育て相談スペースを設けて、親が自由に相談できるような環境を作って親子支援ができるようにした。

3月には、子どもたちへ卒業や進級プレゼントとして、宮城野子ども食堂と連携し、文房具などの配布イベントを行う。

所感：専門的な知識のある保育士が相談会に参加することで、地域に頼れる人がいること、安心できる場所があることを知ってもらうことにつながっている。また、児童館との連携で、情報共有がこまめにできている。

会場としても使用する宮城野児童館との打合せをこまめに行い、活動内容を考えた。実際に親子の声や要望を聞いて、工夫し支援にも活かしていた。また、宮城野子ども食堂との連携では、コロナで開催が中止になっても定期的な打合せを行い、意見交換や地域の情報共有を行った。

周知方法では、チラシ配布を一緒に行っている。



地区：石巻市 渡波地区
企画名：豊食時代の貧困食
(子どもを社会全体で育む環境づくり)

地域とのつながり

事業実施にあたり、石巻市社協と渡波地区担当の主任児童委員との打合せを月 1 回開催し、地域の現状や子どもへの支援について情報を共有し、検討を進めた。また、地域へのみそ玉配布の時には、保育園でも同時に全世帯対象に配布した。

10. 輝宝福祉会 石巻ひがし保育園

協働団体

- ・石巻市社会福祉協議会
- ・主任児童委員
- ・担当行政区の民生委員 ・区長

【保育園での配布様子】



【関係者打ち合わせ】

所感

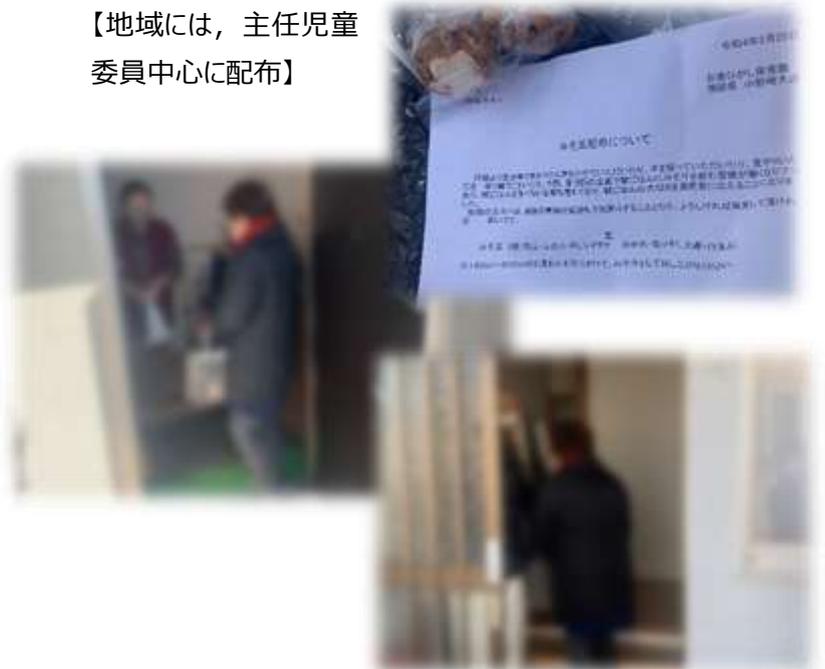
これまで地域との協働事業を実施したことがなかった保育園が、この事業をきっかけに、石巻市社協や主任児童委員とのつながり、関係性を深めることができていた。また、定期的な打合せを開催することで、こまめに情報共有や意見交換ができたことで、次回のイベント開催へも、はずみがついた。

内容

保育園内の保護者に食育や生活リズムについてのアンケート調査を行い、実態把握をした。その中で、朝食を十分に食べていない子どもが多くいることが分かり、保育園での間食の充実を図った。

食育の大切さを保育園だけではなく、地域全体に向けて伝えるため、月 1 回主任児童委員や石巻市社協と打合せを行った。みそ汁の素となるみそ玉を作成し、保育園全世帯と地域の復興住宅の地域住民を対象に、合わせて 65 世帯に配布した。

【地域には、主任児童委員中心に配布】



宮城県社会福祉協議会

みやぎボランティア総合センター

TEL : 022-266-3951

FAX : 022-266-3953

MAIL: myvc@miyagi-sfk.net